

ント原料化や西部リサイクルプラザ稼働により、27年度は25%への向上を目標値に掲げている。

また、21年度の埋立処分率は、前年比0.7ポイント減少し、約9.3%となる見込みであり、27年

度は約4.5%と半減する目標値を設定している。

ゆうあいクラブ

公共交通再生への考え方

問 衰退した地方公共交通を再生するために公設民営としてはどうか。

答 公共交通は住民の足として機能する重要なもので、公的支援が手厚くなっている。本市でも岡山駅の東西交通広場整備、低床バスやICカードの導入等、行政としてバス交通の利便性向上に対し、支援を行っている。

しかし、市内のバス路線は平成11年の約250路線が21年には約170路線と減少し、岡山駅西口整備を契機としたバスの方面別化の取り組みが進まないという現実がある。公設民営を行う場合は交通事業者も公的使命を一層自覚し、市民目線に立った経営を行い、行政と車の両輪の関係を築くべく努力することが必要だと考える。

地域における

子育て支援拡充事業

問 地域における子育て支援拡充事業の具体的な内容は。

答 子育て支援を目的としたNPO法人の立ち上げ及びボランティア団体等の子育ち・子育て支援事業に対する助成、児童館の環境改善、放課後児童クラブ

の地域連携を促進するための助成、身近な遊び場として幼稚園の余裕教室等の開放事業など、子どもや親子のふれあいの場の拡充や子育て支援の充実を図る7つの事業を開催する予定だ。

青空市で地産地消を推進

問 地産地消は大切な施策であり、青空市などが行われるよう指導すべきでは。

答 市内に27カ所の青空市や直売所があるが、本市では直売所



中区役所庁舎前での青空市

マップをホームページに掲載するなど、市民への情報提供を行っている。平成21年度は新たに中区役所庁舎前で青空市を開催したり、京橋朝市への出店を募るなど、地産地消の推進に努めてきた。22年度からは、消費者が直接農地で農産物を購入し、農業に触れることで地産地消への理解を深める「農地でショッピング事業」も実施する。

バイオディーゼル燃料利用状況

問 使用済み天ぷら油の回収量、現在の利用状況と今後の見通しは。

答 平成21年4月から22年2月末日までの家庭系の使用済み天ぷら油の回収量は、104klであり、年度末には初年度目標量の約80%となる見込みだ。同期間の事業系の回収量は139kl、年度末には初年度目標量の約37%となる見込みだ。また、21年7月から22年2月末までのバイオディーゼル燃料の使用量は148klで、全量を72台のごみ収集車で使用している。今後は、ごみ等の収集車両約120台へ使用予定で、年間500klを利用したい。

豊富な食材で

全国に情報発信

問 岡山市にふさわしい観光資源は何か。

答 民間の調査結果によると、旅行動機の一つは「おいしいものを食べること」となっている。幸い、本市は瀬戸内の海の幸、白桃やマスカットなどのフルーツ、黄ニラなどの特産品等、豊富な食材に恵まれている。

現在、岡山商工会議所等と連携して、「フルーツパフェの街おかやま」を全国に向けて情報発信しており、首都圏での認知度も徐々に上がってきている。

市民ネット

政令市発展予算枠

問 当初予算で政令市発展予算枠を設け、魅力的な新規事業が並ぶべきところだが、継続事業の予算拡大が大半を占めている。

発展枠の本意とズレがあるのではないか。

答 発展枠は、シーリングの制約を受けず、本市の発展に資する事業を考えたもので、新規や

拡充だけでなく、継続も含まれるため、事業費そのものを発展枠として見せたものだ。今回は34件の新規事業、10億円余の予算額となっており、シーリングの枠にとらわれず、各局区室が創意工夫をして、編成したとい